名無しの手紙

山本良磨

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
名無しの手紙

【Ｎコード】
Ｎ１２５６ＢＡ

【作者名】
山本良磨

【あらすじ】
この世界には手紙屋という、手紙を人へ届ける職業があった。名前を名乗らない手紙屋の青年？名無し？　有名な手紙屋を両親に持つ少女？メール？　行方不明となっている親を探すため、メールは名無しと共に旅に出る。

第一話　リリアーヌ編　01

静かに打ち寄せる波の音をずっと聴いていた。
少女は堤防に座り込み、海上に突き出した足をぶらぶらさせていた。波音にリズムを合わせて小さく鼻歌を歌っている。
少女は白いワンピースを着て、さらにその上から黄土色のチョッキを羽織っていた。今の季節は冬なのだが、大陸の南に面し、海に面しているこの村では冬でも初夏のようにあたたかな気候だった。
彼女――メールという名の少女は、この堤防でぼうっとするのが日課となっていた。
周りにメール以外の人はいない。この村はもともと人が少ないのだが、朝、夜が明けた頃から村の男たちが漁へ出るので昼あたりでは人の数がめっきり減ってしまう。それでも女子どもはいるので、全くのひとりぼっちというわけではない。しかし、この時間帯では、わざと一通りの少ない場所へ行き、彼女が一人の時間を作っていた。
メールは思いっきり息を吸い込んだ。潮の香りがする。背中のあたりまで伸びている長髪が潮風に揺られた。彼女はこの場所と、ここから見える風景が好きだった。空は青く、海も青く、はるか遠くの水平線ではそれらの区別が曖昧なものとなってしまっている。眼下では波が堤防にあたって白いしぶきを立てている。
いつからか、こうやって海風を感じながら何もしないことを楽しむようになっていた。
朝や夕方は子どもたちと仲良く遊んでいる。村の子どもはみんな彼女よりも幼く、同い年以上の子どもはいなかった。彼女自身も十三才と幼い年齢ではあったが、幼くして一人で暮らしを始めていたこともあり、お姉ちゃんのような立場で子どもたちと接していくようになった
しかし、メールも一人でゆっくりする時間が欲しかった。子どもたちと遊ぶ時間や、村のおばさんたちと話す時間、日々の家事に追

われる時間とは別に、年頃の女の子として無邪気でいられる時間が欲しいと感じた。そこで小さな友達と遊ぶ前に、一番お気に入りの場所で体を揺らしながら、たまに歌いながら過ごすようになっていた。

また、そうしていることで、日々の忙しさや楽しさのあまり、思わず忘れてしまいそうになってしまう大切なことを忘れずにもすんだ。

メールは小さく呟く。「お父さん、お母さん」

「おい」

誰もいないと思っていたのに声がしたので、メールは身をこわばらせた。ゆっくりと顔を右に向ける。左に向ける。しかし、声の主は見つからない。

「どこ見てんだ。下だよ、下」

言われたままに堤防の下――海と反対側にある道を見下ろした。そこには、あきれたように少女を見上げる青年の姿があった。

誰だろう？　少女は首をかしげた。この村は小さいため、村人全員の顔はよく知っていた。雰囲気でも誰なのかがわかるくらいだ。しかし、全身を黒いコートで包んでいる青年はメールも見たことのない人だった。そもそも、ここからだと彼の顔が小さくてよくわからない。

もっとよく顔を見ようと少女は堤防から身を乗り出し、少しでも青年に顔を近づけた。目を凝らしてじっと見つめる。相手の方はというと、そのあいだ一歩も動かなかった。

メールは顔をしかめた。やはりここからではよくわからない。しかし、村の人ではなさそうだった。

「すみませーん、誰ですかー？」

青年はメールの方を見たまま、答えを返した。

「誰でもないし、誰でもいい。俺は手紙屋だ」

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1256ba/

名無しの手紙

2012年1月3日01時52分発行